



キャー だけど キモチいい

少年少女青空学校

■子どもの頃から青空学校に通って高校生で指導員になり、親になってからは我が子を参加させ、現在は本部スタッフの坂本昭子さんにお話を伺いました。

小平少年少女青空学校は学校であって、学校ではありません。校歌があっても、例えば「じしゃく」についての学習をしても、友達がいても、ご飯を食べても、ひとつのことを力を合わせて成し遂げても、いつも通っている学校ではありません。

校歌はギター伴奏で歌うオリジナル曲です。「理科的なものがテーマになることが多いのは、目標が達成されたかどうかのわかりやすいから」です。目指すところは、「本当の意味での安心できる、こころがひらく居場所づくり」だと坂本さんは言います。高校生以上の人はいませんが、校長先生も先生もいません。いるのは「あだな」で呼び合う仲間です。市内の学校に通う小学2年生から中学3年生が参加します。3泊4日、知らない人たちと力を出しきって生活づくりをする場です。

坂本さんに長く青空学校に関わってきたワケを尋ねると、「素の自分をそのまま受け止めてくれる指導員がいて、心地よい場所だから」と、答えました。ためらいのないその答え方にナゾが解けました。

■データ

- 夏の青空学校…緑と太陽の丘キャンプ場(山梨県上野原市秋山 5030)
8月19日(金)~22日(月)
- 開校式 7月31日(日)小平特別支援学校体育館
参加費 19,500円
- 申込み・問合せ 末廣 042-388-4452
高橋 042-343-8818 辻 042-348-4561(夜間)
- 春、市内学校の体育館でイベントがあるほか日常的な少年団の活動もあります。

あすぴあ登録団体の紹介

小平おもちゃの病院

■「捨てないで診察を受けましょう」という言葉にキャッチされて、出張修理をしている「ごみゼロフリーマーケット」の会場に出かけ、小山陽一ドクターに話を聞きました。

会場の市役所駐車場2階に上がった、すぐ左におもちゃの病院がありました。受付に「ナース」が2人、その後ろで壊れたおもちゃを黙々と修理している「ドクター」が4人、大きな木のおもちゃの治療をしているドクター、小さな機器を治療しているドクター、それぞれに専門があるらしく、違った種類のおもちゃを治療していました。ナースに紹介された小山陽一ドクターは、この病院の創設者のひとりです。

ドクターは、手軽に直せる技術とノウハウ、それに必要な部品や道具を持ったプロ職人。いつも小山さんが持ち歩いているリュックには、竹へら、歯ブラシ、爪楊枝、スポンジ、荷札の針金など、素人には使い方がわからない道具や部品が300ぐらい入っています。その中には、100円ショップで買った爪みがき、マニキュアを取る除光液もあって驚かされました。そう言えば、おもちゃの病院は診察費、治療費は無料、入院費100円、手術費50円からという超低価格。ドクターはコスト削減に工夫しているのです。

中には、昔、勤めていた会社の工場に行って部品を加工してくるドクターもいる。それもこれも、子どもが大好きなドクターが「ウー、動いたあ」と喜ぶ子どもの笑顔を見たくてやっていること、なのです。「おもちゃが壊れたら、気軽に、持って来てください」と、小山さん。小平おもちゃの病院は、来年4月、開院10周年を迎えます。

内科?外科?
熱心に直します。



■データ

- 外来診療 福祉会館で、月2回、土曜日の午後1時~3時半まで。
- 出張修理 ごみゼロフリーマーケット、きらきらパーク、エコフェスタ2011
- 診察料 無料。ただし、預かって修理する場合は入院費(100円)、部品を交換した場合は手術費(50円から)が必要です。
- 完治率 95%(年間300弱のおもちゃを診療しての結果です。)
- 小平おもちゃの病院
〒187-0032 東京都小平市上水新町3-1-15
電話 042-344-0477 fax 042-344-0477
メール t.y-sasagawa0477@beetle.ocn.ne.jp
URL
<http://www.asahi-net.or.jp/~ap7m-kndu/toyhospital/>

こんな活動をしています

地域生活支援センターあさやけ

■精神的な障がいのある人が友達と、おしゃべりしたり、お茶を飲んだり、ゲームをしたり、楽しくすごせる場所があると聞いて、小平元気村おがわ東に行ってきました。

緑がいっぱいの小平元気村おがわ東の1階に、地域生活支援センターあさやけの交流室があります。ここには午後になると、人が集まって来ます。3対1で男性が多いようですが、年齢は20歳代から60歳代までさまざまです。思い思いに午後のひとときを過ごしています。ここでできた友達と待ち合わせをして、どこかに一緒に出かける人もいます。1日平均30人くらいの人が交流室に来るそうですが、運営する地域生活支援センターあさやけの所長・伊藤善尚さんは、「もっともっと遊びに来てほしい」と言っています。



情報コーナー
交流室の様子

交流室には、みんなでゲームをしたり、買い物から片づけまでのお手軽クッキング、これから料理をおぼえたい人のためのらくらくクッキング、カレーや炊き込みご飯を食べながらおしゃべりするしゃべり場ディナー、書道とお茶会を楽しむ女性のための書道、ディズニー教材等を使って楽しく英語が学べる英会話、持ち寄りの音楽や映像を楽しむお楽しみ鑑賞会など、楽しいプログラムが用意されています。

そして、何か不安なことや、生活するうえで困ったことがあれば気軽に相談もできます。「みなさんが自由に遊びに行ける場でありたい、と考えています。利用していただくことで、いま住んでいる地域での生活がより充実したものにしていただけたら、と願っています」と伊藤さん。交流室は、なんだかほっとできる場所でした。

■データ

- 対象者 主に精神に障がいがある方や家族。情報コーナーはどなたでも。
- 交流室 月・木・金 12:00~19:00 火・水・土 12:00~18:00 祝日は月曜と土曜のみ利用できます。
- 電話相談 月・木・金 10:00~19:00 火・水 10:00~18:00 土 12:00~18:00 祝日は月曜と土曜のみ利用できます。
- 来所面談による相談 電話での予約が必要。正午から。
- 交流活動やプログラムをお手伝いしてくれるボランティアを募集しています。
- 地域生活支援センターあさやけ
〒187-0031 東京都小平市小川東町4-2-1
電話 042-345-1741(相談用) 042-345-2077(事務用)
FAX 042-345-1734
メール kaze1741@asayake.or.jp

あすぴあ登録団体中、取材希望のあった団体を訪ねて活動を紹介します。

NPO法人匠リニューアル技術支援協会



パネルディスカッションでは社会の構造的な問題も指摘されました

■NPO 匠の名前に興味を持ったので、定期開催しているセミナー、匠塾にお邪魔しました。建設業に関わる若い人が多く出席していました。一般の人でも参加できるそうです。

「消費者が住宅を手に入れることは一生に一度あるかないかのことです。が、手に入れてしまうとその後、の維持管理にはほとんど関心がありません。」マンション管理士の荻原健さんの声にドキっとしているうちに「マンションを修理すると若い人が住むようになってまちとして機能します」と話は進んでいきました。

NPO 匠には施工会社の人、管理組合の人、マンション管理士、大学教授、地裁の調停委員と様々な立場の人がいます。「それが強み」と代表の毛塚宏さんは言います。NPO の利用者は、どの立場にも偏らない支援を受けて困ったことを解決できるからです。匠塾で職人は技術を向上させ、仕事に誇りを持ち、「お父さんの仕事、カッコいい」と後継者が育ちます。消費者は、自分たちの住む場所に主体的に関わることの大切さを知ることによって、業者の選び方を学び自分たちで業者を決めるようになります。NPO 匠は、NPO の活動をしているうちに業界全体の評判をよくし、若い人の職場をつくり、ひいてはこの国の「世直し」をすることができます。

子どもの頃、大工さんに戸のすべりや雨漏りを直してもらったり、学習机をつくってもらったり…と私たちは家を直しながら、人と関わりながら生活してきました。効率が一番と言っている間に私たちは職人さんとのつきあいを忘れてしまったようです。

■データ

- 「高齢化に伴うマンションの管理・運営のあり方」
7月21日(木) 19:00~20:30
- 「建物の長寿命化に即した大規模修繕工事とは」
7月28日(木) 19:00~20:30
いずれも練馬区立労働福祉会館
500円(資料代)/30人(先着順)
- NPO 法人匠リニューアル技術支援協会
〒179-0074 東京都練馬区春日町4-1-18
電話 03-5987-4688 FAX 03-5987-4689
メール info@npo-takumi.or.jp
URL <http://www.npo-takumi.or.jp>